

TOUR DE HOKKAIDO 2006 NEWS

2nd.Stage 2006年9月15日発行

区間個人順位

順位	名前	チーム	タイム
1	宮 沢 崇 史	V A N G	4:28:55
2	ダニエル・マッコネル	オーストラリア	+0:03
3	鈴木 真 理	ミヤタ・スバル	+0:03
4	ジェイコブ・アーカー	カナダ	+0:03
5	土 井 雪 広	スキル・シマノ	+0:03
6	西 谷 泰 治	愛 三 工 業	+0:03

個人ポイント賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	宮 沢 崇 史	V A N G	47
2	鈴木 真 理	ミヤタ・スバル	35
3	盛 一 大	愛 三 工 業	27
4	ウェズリー・サルツバーガー	オーストラリア	26
5	ダニエル・マッコネル	オーストラリア	23
6	マリウス・ヴィズリアック	N I P P O	20

団体総合順位

順位	チーム名	タイム
1	愛 三 工 業	25:49:26
2	カ ナ ダ	+0:04
3	V A N G	+0:14
4	スキル・シマノ	+0:16
5	ミヤタ・スバル	+0:23
6	ブリヂストン・アンカー	+1:01
7	オーストラリア	+6:53
8	N I P P O	+7:01
9	マトリックス	+7:38
10	ド イ ツ	+7:54
11	チェーン・スタイベイ	+8:10
12	鹿屋体育大学	+14:40
13	北海道地域選抜	+14:54
14	法 政 大 学	+15:00
15	韓 国	+21:32

個人総合時間順位

順位	名前	チーム	タイム
1	宮 沢 崇 史	V A N G	8:36:02
2	ダニエル・マッコネル	オーストラリア	+0:07
3	鈴木 真 理	ミヤタ・スバル	+0:08
4	西 谷 泰 治	愛 三 工 業	+0:09
5	土 井 雪 広	スキル・シマノ	+0:15
6	ジェイコブ・アーカー	カナダ	+0:17

個人山岳賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	辻 善 光	立命館大学	19
2	土 井 雪 広	スキル・シマノ	11
3	中 島 康 晴	鹿屋体育大学	10
4	キム ドンヤン	韓 国	6
5	普 久 原 奨	ブリヂストン・アンカー	6
6	福 島 康 司	V A N G	5

2nd.Stage 宮沢が逃げ切りステージ制覇で、個人総合時間トップに浮上

第2ステージは土別市役所をスタートし、深川市総合運動公園にフィニッシュする、185km。

序盤、アタックが繰り返された。特にVANGとNIPPOが積極的な動きをみせたが、なかなか決まらない。

最初のKOM手前で福島康司(VANG)が逃げをうち、そのまま土別峠をトップ通過。土井雪広(スキル・シマノ)が2位通過。そして、山岳賞ジャージを着る辻善光(立命館大学)が食らいつき3位で通過した。2回目のKOMは土井がトップだったが、つむ 2位通過。この時点で山岳賞ジャージを守った。

次の下りで、清水良行(NIPPO)がアタック。これに再三アタックをかけていた福島康司が追いつき、最初のホットスポットは清水、福島に通過した。

ホットスポット後、シェルストピトフ(カナダ)、大村寛(法政大学)、柿沼章(ミヤタ・スバル)、津末浩平(ミヤタ・スバル)、キム・ドンヤン(韓国)が清水と福島に合流して7人の逃げ集団を形成する。

この7人の中でも動きをみせながら、2回目のホットスポットと3回目の



残り15km地点で総合上位陣が入った逃げ集団が形成。ラストで飛び出し、後続を振り切ってステージ優勝を決めた宮沢崇史(チームVANG)

KOMを通過した。3回目のKOMの上りで後続集団もペースアップし、下りで逃げている選手たちを吸収して、レースは振り出しに戻った。

169km地点の上りで土井、ジェイコブ・アーカー(カナダ)、ダニエル・マッコネル(オーストラリア)がアタック。これに西谷泰治、石田哲也(NIPPO)、宮沢崇史(VANG)、鈴木真理(ミヤタ・



果敢にアタックを決めた大村寛(法政大学)。一時は単独で逃げた。最終的にメイン集団からも遅れてしまったが、制限時間ギリギリでゴールした

スバル)が合流して7人が先頭集団を形成した。石田以外の6人は個人総合時間賞で上位の選手たち。逃げ切れば個人総合時間賞逆転の可能性もある。

ゴール手前で西谷泰治が飛び出したが失敗。このカウンターで宮沢崇史がアタックを決め、3秒差をつけて単独でゴール。ボーナスタイムも獲得して、宮沢が個人総合時間賞でトップに立った。

Next Stage 最難関の山岳ステージ。個人総合と山岳賞の行方は？

第3ステージは今大会でもっとも険しい十勝岳の峠越えを含む本格的な山岳ステージだ。スタートから約72km地点に設けられたKOMの標高は1050m。麓からの高低差は約600mにも及ぶ。

第2ステージまで山岳賞ジャージは立命館大学の辻善光が着ている。大学生としては異例の大活躍だ。第1ステージ後の表彰台では戸惑いも見せたものの、第2ステージ後には「狙っていました」との堂々たるコメントを残している。

通学路の50kmだけが練習コースという典型的な学生ライダーの辻が、第3ステージの峠でどこまで粘れるかが見ものだ。

また、第2ステージで山岳賞獲得に意

欲を見せた大本命の土井雪広(スキル・シマノ)が実力を発揮できるか、あるいは思わぬ伏兵が現れるか、いずれにしても今大会最大の見所である。

リーダージャージの行方もこれから勝負だろう。ヨーロッパのレースで鍛えてきたとはいえ、現在リーダーの宮沢崇史(VANG)は本来上りが得意な選手ではない。リーダージャージマジックでアメイジングも起こりうるが、山で置いていかれる可能性も考えられる。

オーストラリア、ミヤタ・スバル、愛三工業、スキル・シマノ、カナダといった個人総合時間上位の選手を抱えるチームの動きに注目だ。

各賞とも、まさしく明日がヤマ場だ。



山岳賞ジャージを着用する辻善光(立命館大学)は、第2ステージは山岳賞を防衛した上にU23賞も獲得。最大の山場で山岳賞を守れるか？